



好学愛知 自律敬愛 質実剛健

鶴鳥イ言

鹿児島県立鶴丸高等学校

〒890-8502 鹿児島市薬師二丁目1番1号

TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433

http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

7月の行事予定

Calendar table for July with columns for date, event, and category (e.g., 通学マナ, 校外指導, 2年修学旅行, 夏季休業日).

泣きよつか、ひつ翔べ 進路指導課 大倉 秀心

鹿児島での教員生活が今年で二十三年目を迎えた。大学卒業までの十二年間を東京で過ごした私にとつて、ようやく人生の半分以上を鹿児島で過ごしたことになる、これでやっと「自分は鹿児島人」と胸を張って言ってもいいのだと自分で勝手に思っている。

『翔ぶが如く』に描かれた薩摩は私の心を強く揺さぶった。江戸から明治へと新しい国を作るのに中心的な役割を果たした薩摩は、得地の知れないエネルギーに満ちあふれていたはずだ。初太刀から勝負の全てを掛けて斬りつける先手必勝の示現流。年長者は年少者を指導すること、年少者は年長者を尊敬すること、負けるな、うそをつくな、弱い者をいじめなるといふことなどを、人として生きていくために最も必要なこととして教えた郷中教育。これらは薩摩だったからこそ育まれたものだと感じた。西郷や大久保をはじめとする維新の立役者ばかりでなく、薩摩という風土・文化そのものに私は魅了されていた。薩摩をもっと知りたい、感じたい、そんな思いで超バブル期の就職戦線を捨て、鹿児島島の教員生活を選んだ。維新の志士よろしく、県外の大学へ飛び出し、自分の未知の可能性に挑もうとする生徒たちを目の前にし、今でも『翔ぶが如く』

が生きていると感動を覚えた。初任給で手に入れた自転車を錦江湾まで走らせ、雄大な桜島を眺めながら、「ここに来て本当に良かった」と心から思った。それから二十年以上が過ぎ、日本は大きく変化化した。バブル期に浮かれていた国が嘘のように大人しく、こじんまりした、スケールの小さい、守り重視の国になってしまった。若者は「内向き志向」になった。夢を語らなくなった。自分の可能性に蓋をするようになった。情報が加速し、都会と地方の垣根がなくなり、地方らしさが薄れ、人の考え方も均一化するようになった。鹿児島でさえ「無理をしなくても」という雰囲気を感じられるようになった。

いま、「鶴丸は例外」だと言えるだろうか。薩摩に憧れて人生を決めた私としては、鶴丸生は違うと「敬天愛人」の考えは本校の校歌にも歌われ、「For Others」の精神にも息づいている。学習は自分の私利私欲のためでなく、世のため人のため、日本だけでなく世界のためにするものなのだ。鶴丸生は考えていると思いたい。時代は変わっても、先人から受け継がれてきた薩摩の血は鶴丸生の中に流れているはずだ。

高校生年代ということを考えれば、たかが十八年ほどの人生経験、学習というだけではわずかに十二年間の結果だけで、自分の可能性を見切りをつけ、その後の人生を決めつけようとするのが、どれほど馬鹿馬鹿しいことか。一度や二度の失敗（受験では大学入試の不合格）くらいで命まで持つて行かれるほどの物騒な世の中でもあるまい。何も恐れることなく、「外向き」に、「For Others」の精神を大

中高連絡会



6月11日(月)、本校文化館で中高連絡会が開かれた。この会は、中学校と本校の連携を深めることを目的に毎年実施されている。今年度も46の中学校から先生方が出席され、本校の学校紹介DVDを視聴した後、校長挨拶、平成24年度の入学選抜学力検査の概況、本校の学習・進路指導、生徒指導についての説明と続いた。質疑応答の後、各中学校の先生方と本校職員との懇談の時間には、中学校の先生方から、卒業生の進路や在校生の近況について多くの質問が寄せられるとともに、在校生の中学時代の活動状況や、同じ教育現場に身を置く立場として活発な意見交換が行われた。

出身中学校の先生方は、今も本校生徒を温かく見守っていらつしやる。多くの方々が自分たちを応援し、支えてくれているのだというのを忘れてはいけない。感謝の気持ちを毎日こめて伝えてほしい。

6月14日(木)の午後と15日(金)に、前期クラスマッチが行われた。種目はバレーボール、ドッジボール、サッカー、バスケットボール、卓球の5種目が実施された。例年のことながら、台風・降雨のために実施できなかった中、初日は太陽が顔を覗かせる中、初日は太陽が顔を覗かせる中、運営に携わった多くの生徒達の協力のもと、競技時間・場所の変更を速やかに行い、全日程を終えることができた。一年生にとっては高校最初の、三年生にとっては高校最後のクラスマッチであったが、一年生は、競技や応援を通してクラスの団結力を高め、二・三年生は上級生らしく、クラス毎に一体感のある応援で競技を盛り上げていた。

生徒会新執行部発足

山口 舞さん率いる平成23年度後期生徒会執行部から、米澤浩希君を中心とする平成24年度前期生徒会に引き継がれた。紙面の都合により、新会長・副会長各機関代表のみ紹介する。

- List of student council members: 会長 米澤 浩希(21R), 副会長 久松 彩音(27R), 副会長 田畑 莉奈(17R), 書記総括 重野 泰和(28R), 会計総括 内村 謙吾(27R), 体育局長 花田 磨鴻(23R), 文化局長 杉本 奈緒(22R), 1学年代表 甲斐 洸陽(16R), 2学年代表 王子田 航平(22R), 3学年代表 西原 歩(36R).

前期クラスマッチ

6月14日(木)の午後と15日(金)に、前期クラスマッチが行われた。種目はバレーボール、ドッジボール、サッカー、バスケットボール、卓球の5種目が実施された。例年のことながら、台風・降雨のために実施できなかった中、初日は太陽が顔を覗かせる中、運営に携わった多くの生徒達の協力のもと、競技時間・場所の変更を速やかに行い、全日程を終えることができた。一年生にとっては高校最初の、三年生にとっては高校最後のクラスマッチであったが、一年生は、競技や応援を通してクラスの団結力を高め、二・三年生は上級生らしく、クラス毎に一体感のある応援で競技を盛り上げていた。

保健講話

6月27日(水)、上片平産婦人科院長の上片平昭二先生を講師にお招きして、「性について学ぶ」性感染症と睡眠についてという演題で保健講話が行われた。先生は、性感染症の具体例を挙げながら、我々の身近に潜んでいる危険や学生の感染率の高さ、そのリスクの高さについて話してくださいました。さらに、生涯を通じて健康づくりの基礎となる「睡眠」についての知識と、睡眠と能率のいい勉強との相関性についても教えてくださいました。

正しい知識を身に付け、互いの違いを認め合い、尊重し合う。それが相手を大切にすることであり、また、自分自身を大切にすることにもつながるはずである。上片平先生のお話から学んだことを生かして、自分の生活を振り返って、健康で充実した高校生活の在り方について模索していただきたいと思います。

行を支えた放送部、コート整備や審判に尽力した各運動部生など多くの仲間たちの結によつて、学校行事として成功させることができた。仲間感謝し、クラスマッチで築いた絆を大切にして、来たる文化祭・体育祭を成功に導くことのできるクラス作り、環境作りをしていこう。

